

貸し出し資料（「美濃国」刻印須恵器・木簡）を利用した学習活動

1 ねらい

奈良時代の地方の人々のくらしの様子と天皇の力の大きさや広がりについて、貸し出し資料（「美濃国」刻印須恵器・木簡）を利用し、都と郷土のつながりを実感的にとらえながら考えることができる。

2 指導計画

社会科「聖武天皇と奈良の大仏」全9時間

単元計画

- 第1時 **大仏の大きさを感じてみよう** 教科書の写真で大仏の大きさを感じた後、可能な範囲で大仏の大きさを再現し、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を考える。
- 第2時 **全国から集められた人々が大仏をつくる** 聖武天皇の願いや、大仏づくりのために人や物資が全国から集められたことの意味について話し合い、本小単元の学習問題をつくる。
- 第3時 **天皇中心の国をつくる** 天皇中心の国づくりが始まったころの様子について、年表や資料を使って調べ、発表する。
- 第4時 **天皇の力が全国に広がる** 平城京のイラストや地図、「都へ運ばれてきた全国のおもな産物」の図、貸し出し資料などから、地方の人々のくらしの様子と天皇の力の大きさや広がりをとらえる。
(本時)
- 第5時 **仏の力で国を治める** 聖武天皇が位についたころの社会の様子を調べ、大仏造営の背景について分かったことや、自分なりに考えた事をまとめる。
- 第6時 **大陸の文化を学ぶ** 大陸との文化的なつながりや鑑真が仏教普及に努力した様子などを資料から読み取り、天皇が大陸文化を摂取しようとした目的について考える。
- 第7時 **貴族のくらし** 「都の貴族のやしきの様子」の絵画資料や教科書本文などを読み取り、当時の貴族のくらしについて分かったことをまとめる。
- 第8時 **日本風の文化が生まれる** 教科書掲載の資料や紫式部・清正納言の文学作品などから、このころ生まれた日本風の文化の特徴について、分かったことや考えたことをまとめる。
- 第9時 **まとめとふりかえり**

3 事前打ち合わせ・事前指導

- ①電話で貸し出し資料の予約と取り扱い方について打ち合わせをする。
- ②貸し出し申請書を提出する。（同じものを2部）
- ③歴史学習が始まって間もない時期でもあるので、博物館の総合展示の展示品について興味・関心をもたせ、今後の発展学習につながるよう指導を行っていきたい。

※「美濃国」刻印須恵器は、国の重要文化財に指定されているため、須恵器の写真や「美濃国」刻印のレプリカを借用するとよい。また、博物館に依頼し学芸員に学習場面に立ち会ってもらうこともできる。

4 学習場所 教室